

都城市文化財調査報告書 第89集

鍋前第5遺跡

— 県営中山間地域総合整備事業高崎地区に伴う発掘調査報告書 —

2008年3月

宮崎県都城市教育委員会

序 文

本書は、「県営中山間地域総合整備事業高崎地区」に伴って、平成18年度に都城市教育委員会が調査を実施した鍋前第5遺跡の発掘調査報告書です。

都城市高崎地区では、100箇所を越える遺跡が見つっています。その中で、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての集落遺跡は、上示野原遺跡があります。

本書の刊行を通じて、地域の文化財に対する理解と認識が深まって行くことを願うとともに、今回の成果が学術研究の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

最後に、調査の実施に際しご理解とご協力をいただいた地区住民の皆様や北諸農林振興局をはじめとする関係機関の方々、そして発掘作業から調査報告書作成にいたるまでご協力いただいたたくさんの皆様に対し、心より感謝申し上げます。

2008年3月

都城市教育委員会
教育長 玉利 讓

例 言

- 1 本報告書は、平成18年度に宮崎県都城市教育委員が実施した県営中山間地域総合整備事業高崎工区に係る鍋前第5遺跡の発掘調査報告書である。調査地は、宮崎県都城市高崎町大牟田1794-2他である。
- 2 調査は、宮崎県北諸県農林振興局の委託を受け、国庫補助事業として都城市教育委員会が実施した。
- 3 平成18年度は、現場での発掘調査を行い、平成19年度に整理作業を実施した。
- 4 調査組織は、次のとおりである。

平成18年度

調査主体 都城市教育委員会
教育長 玉利 謙
教育部長 今村 昇
事務局 高崎生涯学習課
課長 今村 功
主幹 木下 章
調査担当 山 寄 薫

平成19年度

調査主体 都城市教育委員会
教育長 玉利 謙
教育部長 岩 崎 透
事務局 高崎生涯学習課
課長 鳥 井 秀 明
主幹 木下 章
調査担当 山 寄 薫

- 5 測量は、民間業者へ委託した。
- 6 調査によって得られた資料及び出土遺物については、高崎地区公民館内で保管している。
- 7 本書の作成は、山寄が担当した。

本文目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 鍋前第5遺跡	3

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 調査範囲図	4

I 調査に至る経緯

平成14年度に県営中山間地域総合整備事業が高崎地区（木下・鍋）で採択されたが、当該計画地域内には周知の遺跡があるため、平成15年度に県文化課による試掘調査が行われた。

その結果、地下遺構の残存が認められた範囲の埋蔵文化財の取り扱いについて、北諸県農林振興局と旧高崎町教育委員会による協議を行った。この試掘調査によって、新たに確認された鍋前第5遺跡は、当初計画では現状保存が可能であったが、事業計画の変更により遺跡範囲の一部で発掘調査が必要となった。このため、再度協議を行い平成18年度に現地での発掘調査を行い、平成19年度に整理作業と報告書の刊行を行うこととなった。

II 遺跡の位置と環境

1. 自然環境

都都市高崎地区は、宮崎県の南西部にあたり、霧島山麓から広がる都城盆地の北西部にある。東は大淀川、北は大淀川支流の岩瀬川に画されている。町内の地形は、全体的に都城盆地に向かって、北西から南東に標高を減じている。この傾斜に従って、町内の河川は、北西から南東に流れる。最も標高の高い地点は、北西部山田町との境界にあたる長尾山地で標高400mを越える。全体的には、標高300m程度の山地が占める。現在水田として利用されている平地は、およそ標高120m～160mの位置に広がる。地形区分では、山地が約30%、シラス台地が約30%と半数以上を占める。平地は、大淀川支流の高崎川と炭床川流域に僅かに広がる。

地区内は、四万十層群を基盤とし、その上に火山噴出物が厚く堆積している。その主なものは、始良カルデラ起源の入戸火砕流堆積物（シラス）、アカホヤ、御池降下軽石（御池ボラ）等がある。

2. 歴史環境

高崎地区内の遺跡は、昭和63年に公表された数は63ヶ所であった。しかし、平成2年度から3年度にかけて行った遺跡分布調査により、高崎地区内で確認された遺跡数は、164遺跡に上った。

高崎地区内の遺跡の多くは、谷を臨む台地上にある。

旧石器時代の遺跡は、確認されていない。これは、火山噴出物の堆積が厚いため、発見されにくいと思われ、今後発見される可能性がある。

縄文時代の遺跡は、早期・前期・後期・晩期の遺跡は確認されているが、中期の遺跡は確認されていない。集落跡は、後期の栢木（柏木）遺跡と北迫遺跡で堅穴住居跡

が確認されている。

弥生時代の遺跡は、高崎川・荒場川中流域・木下川中下流域・炭床川流域・岩瀬川流域に分布している。その大部分は、後期の遺跡である。その中で、朴木遺跡は、中期の石蓋土壌墓が検出され、その中の1基からは無茎磨製石鏃が24本出土した。また、上示野原遺跡では後期の日向型竪穴住居跡が検出された。

古墳時代の遺跡は、塚原古墳群をはじめとする古墳群と地下式横穴墓の分布が知られている。塚原古墳群の中で、前方後円墳は全長67.6m・後円部径33.4m・同高さ6.0m、前方部長30.0m・同幅22.0m・同高さ4.5mである。この古墳群と同時期の集落跡は確認されていない。

歴史時代の遺跡としては、平安時代前期の越州窯青磁碗を出土した政所第2遺跡が目される。中世には、地区内全域に遺跡の分布が広がり、多くの山城が築かれる。

Ⅲ 鍋前第5遺跡

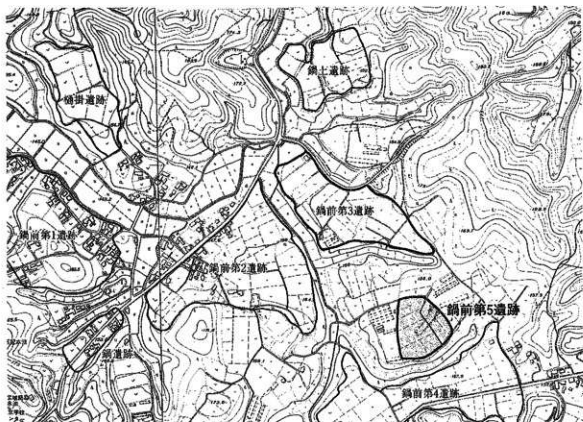
鍋前第5遺跡がある地域は、高崎地区のほぼ中央部で、東から西に緩やかに傾斜する標高155mの台地にある。

平成15年度に県文化課による試掘調査により、新たに確認された遺跡である。

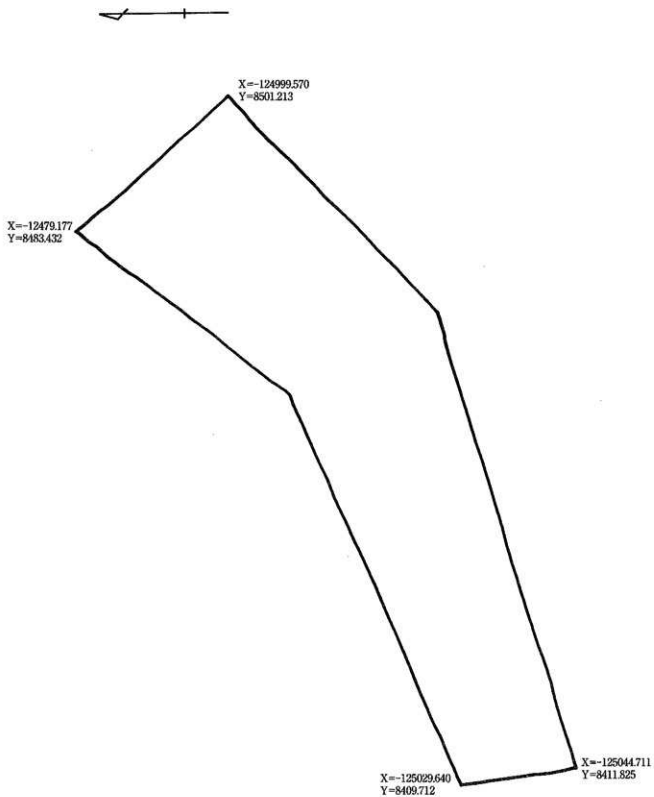
北側の谷を隔てて、弥生時代から古墳時代初頭の集落跡が確認された鍋前第3遺跡がある。

基本的層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：黒色土と高原スコリアの混入土層、Ⅲ層：高原スコリア、Ⅳ層：黒色土（赤褐色粒が少量混入）、Ⅴ層：黒色土（Ⅶが少量混入）、Ⅵ層：黒色土（Ⅶが混入）、Ⅶ層：御池降下軽石層である。Ⅴ層が、遺物包含層である。

当初、鍋前第3遺跡同様集落跡の存在が予想されたが、発掘調査対象地は遺跡範囲の縁辺に当り、調査対象範囲2,000㎡の内、遺物包含層が3分の1程度しか残存していなかった。出土遺物も少量であったため、地下遺構の残存も可能性が低いと判断し、幅2メートルのトレンチで遺物包含層の調査を行うとともに、地下遺構の残存を確認したが、遺構は検出されなかった。



第1図 遺跡位置図 (S=1/10,000)



第 2 図 調査範囲図 (S=1/500)



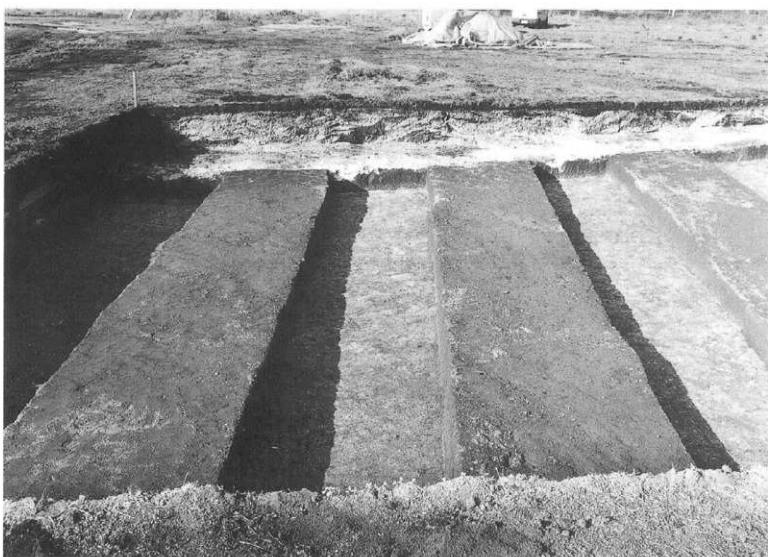
調査区近景（北より）



遺物包含層調査状況（南より）



遺物包含層調査状況（南より）



遺物包含層調査状況（南より）

調査報告書抄録

ふりがな	なべまえだい5いせき					
書名	銅前第5遺跡					
副書名	県営中山間地域総合整備事業高崎地区に伴う発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第89集					
執筆・編集担当者	山岸 薫					
編集機関	宮崎県都城市教育委員会事務局高崎生涯学習課					
所在地	宮崎県都城市高崎町大牟田1289-1 高崎総合支所					
発行年月日	2008年3月25日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
なべまえ 銅前第5遺跡	みやま 官 崎 都 城 高 大 宮 崎 市 城 崎 町 牟 田		0 032	2006.10.06) 2006.12.04	2,000㎡	県営中山間地域 総合整備事業 高崎地区事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
集落	弥生時代終末 ～古墳時代初頭			甕・壺・高坏		

都城市文化財調査報告書 第89集

鍋前第5遺跡

2008年3月

編集発行 宮崎県都城市教育委員会
〒885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号
TEL(0986)23-9547 FAX(0986)23-9549

印刷 株式会社みやこ印刷
〒885-0026 宮崎県都城市大王町51-22
TEL(0986)23-1682 FAX(0986)22-1682

都城市文化財調査報告書 第89集

銅前第5遺跡

二〇〇八年

都城市教育委員会

都城市教育委員会